

関係団体ヒアリング 平和分野（報告）

- 1 日時 令和元年7月29日（月） 15:00～16:00
- 2 場所 追悼平和記念館地下2階会議室
- 3 団体名 平和推進協会 運営会議
- 4 参加者 平和推進協会 運営会議・事務局 9名
関係所属 被爆継承課、平和推進課 3名

合計 12 名



参加者の主なご意見

✿10年前から良くなったこと✿

- ◆ 被爆の継承に若者、大学生等が参加するようになり、多面的にできるようになった。
- ◆ 被爆の継承で、被爆者の家族以外の方が行う交流証言が、国の予算がつくなど飛躍的に広がった。

✿10年前から悪くなったこと・最近困っていること✿

- ◆ 被爆者が高齢化し、被爆者自身による継承が困難になっていくことが考えられる。
- ◆ 被爆者本人からの継承がまだ十分でない。
- ◆ 一部では継承は進んでいるが、一般市民の意識はあまり変わっていない。
- ◆ 一般市民の平和への関心は、以前より無関心な人が増えているような気がする。無関心な人がいることが、一番の課題である。
- ◆ 平和への関心が高い人と、そうでない人の両極化が進んでいる。
- ◆ 修学旅行生、若者への平和教育が行われているが、生々しい写真などを活用する機会が減っている。そのため、原爆とは怖いものである、恐ろしいものであるとの、被爆の実相が伝わって

ない。

- ◆ 核兵器廃絶に対する国際社会の厳しい現実がある。
- ◆ 原爆資料館の指定管理者を平和推進協会が受託しなかったことは、市の平和行政について疑問がある。

❖これから 10 年間、市にして欲しいこと❖

- ◆ 被爆者が高齢化する中、被爆当時に幼齢であった幼齢被爆者たちの掘り起こしをしてほしい。
- ◆ 今後 10 年間で被爆者団体がなくなってしまう恐れがあるので、存続できるよう、サポート等考えてほしい。
- ◆ 公共施設を活用した写真展などを実施し、被爆の実相を市民に伝える取組み。(毎年、戦没者名簿を公民館等に掲示しているが、それに合わせて写真を掲示することができるのではないか)
- ◆ 被爆の実相を語り継ぐ人(若者、親世代)をどうやって増やすのか、育てるのかを具体的に検討する必要がある。
- ◆ 被爆者団体の役割、重要性を再確認し、良好な関係を保持してほしい。
- ◆ 被爆者団体の意見をもっと聞いてほしい。
- ◆ 「入市被爆者」という言葉の普及、説明が必要である。
- ◆ 被爆の実相を伝える写真を活用する機会を検討してほしい。
- ◆ 城山小学校、坂本国際墓地の世界遺産登録。
- ◆ 原爆資料館のリニューアルが必要ではないか。(広島には、「復興の歴史」があるが、長崎にはそれがない)

❖これから 10 年間自分たちでしたいこと❖

- ◆ 被爆地長崎として被爆体験・実相を伝えていくことは、使命・責任・義務である。
- ◆ これまで以上に、被爆体験・実相について、伝えたい人、受け継ぎたい人を増やしていくよう取り組んでいきたい。また、それらの人材の教育プログラムを考えていかなければならない。